ま と め

下部消化管内視鏡検査において、男性が盲腸までの到達時間が短く、挿入率も高率であった（p<0.01)。内視鏡挿入に際し中断した理由は、男女とも疼痛が全体の約７割を占めていた。

本論文の要旨は、第20回日本大腸肛門病学会北海道地方会（平成11年8月28日、札幌市）において発表した。

文　　献

1）黒石哲生、ほか：検診カバー率と大腸がん死亡率の推移からみた大腸がん検診の評価．日消集検誌 37：71 － 75，1999.

2）平山　雄：大腸ガンの疫学的変遷と今後の展望．日本臨床 39：2006 － 2016，1981.

3）多田正大、ほか：免疫便潜血検査．胃と腸 29： 5－ 11，1994.

4）島田剛延、ほか：免疫学的便潜血検査２日法による大腸がん検診の評価．日消集検誌 36：640 － 649，1998.

5）梶山梧朗、ほか：便潜血による大腸癌集団検診法についての調査．広島医学 51：1486 － 1490，1998.

「医療・福祉・保健」

院長　　久保田　　宏

長寿社会の創造は、人類が初めて経験する大事業で、各国は理想の未来をめざして、しのぎを削っており、わが国はその最先端にいる。世界各国は、今や長寿世界一となったわが国の選択に熱い眼差しを送っており、われわれは自らの手で未来長寿社会を創造しなければならない責任を負ったことになる。

この４月から介護保険の導入が始まった。従来の福祉と介護は、お気の毒な高齢者に対する援助が主体であったが、今、高齢化社会の到来で改めて真の福祉が問われ、権利としての福祉サービスが選択される時代となった。即ち、介護保険は従来の措置に代わって「残された能力を最大限に伸ばし自立に繋げる」との目標を掲げており、健康と幸福を目指す施策へと大きくシフトしたものとなっている。その意味ではまさに医療と全く共通の理念と目標をもっており、医療と福祉が一体となって、初めて未来長寿社会の創造ができることになる。

健康づくりも未来長寿社会を創造していくうえで重要である。成人病は、生活習慣病という名称に変わり、良い生活習慣が老年病を予防できる時代となった。これは日本の総医療費の40％が高齢者医療に費やされている現状を考えれば、良い生活習慣による健康づくりこそ医療費抑制のエースであると言える。最近、介護保険の導入により、「介護予防」という言葉が使われ始め、保健の重要性、予防の大切さが再認識されている。その意味では、保健も加えて医療・福祉の３者が一体となって、初めて明るい未来長寿社会の創造が推進されるのである。

現在、ともすれば長寿社会は暗いとの論調が多い。しかしながら、現実に65歳以上の高齢者のうち、要介護者は約13％に過ぎず、これからもそれ程増加はしまい。逆にその数倍の健やかさで、意欲ある「円熟した頭脳と豊富な経験を有する高齢者」が増えることに目を向けるべきである。高齢化が未来に向けてマイナスに働く筈はない。この健やかな高齢者のエネルギーを社会発展に向けて再構築できれば、未来は無限に明るくなる筈である。

医療・福祉・それに保健は一体化して、初めて大きな成果を挙げ、理想の未来長寿社会が達成されることは歴然としている。はじめに述べたごとく、われわれは自らの手で未来長寿社会を創造すべき責務があり、それはわれわれの努力で実現可能であることを強調したい。